

第1章 福島県浜通り地方流域の特性と健全な水循環の必要性

1.1 福島県浜通り地方流域の概要・特性

海沿いの浜通り地方は、阿武隈高地と海岸の間に谷底平野、扇状地、海岸平野が順に見られます。そこでは真野川、新田川、木戸川、夏井川など、阿武隈高地を発した比較的小規模な河川が短い距離を一気に流れ下って海に達しています。

これらの河川には、森・川・海の恵みの象徴とも言えるサケやアユが遡上してきています。

一方、この地方は比較的降水量が少なく、また、河川の流域も小さいことから、先人は、水不足に対応するため、相馬地方の「二宮仕法（報徳仕法）※」により作られたため池や、いわき市夏井川の小川江筋等の水利施設による取水により、水を大切に利用してきました。

（出典：うつくしま「水との共生」プラン 3-1(4)②(7頁)）

森、川、里、街、海がつながる、浜通り

阿武隈高地から海に流れる河川



阿武隈高地の夏井川源流
石ぼっけ(大滝根山)



鹿又川溪谷



谷底平野に位置する滝根町



海岸に達する夏井川と
仁井田川

先人の技術による水利用



宗兵衛堤(報徳仕法)



小玉ダム



中富ため池



小川江筋取水堰



阿武隈山系の地酒

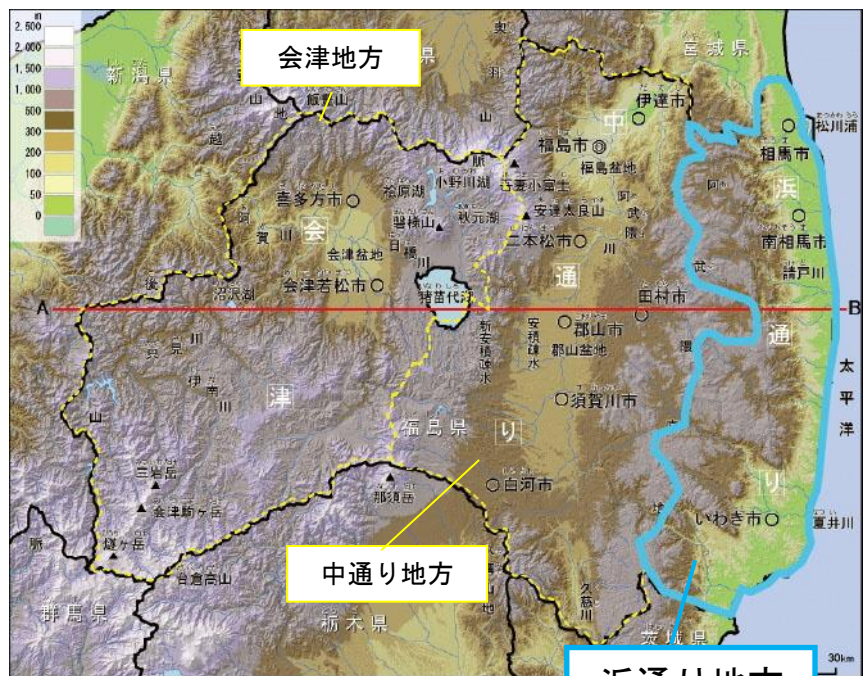


紙漉き



烏鉦の水(湧水)

阿武隈山系の豊かな水文化



※ 二宮仕法（報徳仕法）

二宮尊徳の創始した生活様式です。相馬藩では、天保の飢饉などにより困窮した領民の生活を立て直すため、藩を挙げた用水路やため池の整備などの水利事業、凶作時の食料確保のための備荒対策などが行われました。

1.2 健全な水循環の維持・回復の必要性

本県は多くの河川や湖沼、湧水などの豊かな水環境と、水源をかん養する多様で豊かな森林に恵まれています。

また、河川の水源のほとんどが県内にあるという源流県であり、本県の水との関わり方が下流の県や海に直接影響を及ぼす点からも、源流県としての水環境を保全する責任は大きいものがあります。

近年、地球環境の変化と考えられる洪水や渇水の発生などの自然災害リスクの増加、農業・農村や森林の持つ多面的機能の低下、化学物質による水の汚染、生態系の変化、さらには人々の水に対する関心の低下などの変化は流域の水循環※1に対する負荷を増大させており、このままでは本県の健全な水循環※2が阻害されるおそれがあります。

私たちには、本県の豊かな水環境を保全し、健全な水循環を将来に継承するという責務があります。このため、県民一人一人が水に関心を持ち、水に関する将来像を共有して、小さな事から取組を始めることが大切です。

また、大きな川の流域は、小さな川の流域が集まって形成されており、水の問題に取り組む際には身近な流域から始めるとともに、上流と下流の流域の住民や、県を始めとする行政機関などが広域的に連携して進めていくことが重要です。

これらの取組を一層効果的に進めるためには、有識者や団体等の関係者が幅広く連携し、実践的に問題の解決を図る必要があります。

(出典：うつくしま「水との共生」プラン 1-2、1-3(4)②(1-2頁))



水循環イメージ

※1 水循環

水が、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環すること。

※2 健全な水循環

人の活動及び環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環。